
レポート／卒論を書くにあたって

目 次

■はじめに■	…………… 1 頁
○レポートとは／卒論とは	
○論文の構成	
■研究の進め方■	…………… 2 頁
○研究手順の一例	
○論文執筆の留意点	
○書く上でのコツ	
■学术论文の約束事■	…………… 3 頁
○文献の示し方	
○注のつけ方	
○引用の仕方	
○その他	
■文献検索の方法■	…………… 6 頁
○図書検索サイト	
○雑誌論文検索サイト	
○My Library(Web リクエストサービス)について	
○その他お役立ちサイト	
❖基礎教育学コース卒業論文執筆規定❖	…………… 7 頁
参考文献	…………… 7 頁

■はじめに■

○レポートとは／卒論とは

- 大学4年間で「自分はこのことについて深く考えた」というものがあっていいし、持つべき。
テーマ設定をする上で、ファーストクエスチョン(初発の問題関心)を大切にします。
- レポート —既存の文献・情報(言説)の要約(編集)＋意見・感想くらいで成り立つ。
論文 —レポートとは異なる。既存の言説、先行研究に照らしあわせて、自説のちがいを示す。
先行研究と何がちがう or 新しいのか？何らかの「新しさ」が求められる。
※「新しさ」—新しい論理、解釈／新しい事実の発見。
自分の主張が正しいことを、根拠を示しながら論理的に説明する。
- 卒論を意識しながら、レポートの課題を自分の関心テーマにひきつけてもよい。

○論文の構成

序論—問題意識・課題設定、方法、先行研究の整理(要約、問題点の指摘など)。
本論—序論で設定した課題と方法論にもとづき、議論、論証を展開する。
結論—本論の要約と結論、残された課題など。

- 本論はおおむね3～4章構成。さらに、節>項>…と細分化、階層化してもよい。
ただし、あまり細分化しすぎると、かえって分かりにくくなることもあるので注意。
なお、レポートの場合は必ずしも章立ては必要ないが、長めのものはこの限りではない。

★論文構成(目次)の例 ～Kさんの場合～ (章・節型／1-1型)

戦後20年間における東京都の長期欠席の研究 ——都市下層との関係を中心に——		「復興小学校」における学校建築の教育学的研究 ——教育的機能性および地域社会との関係に注目して——	
序章	…()頁	はじめに	…()頁
第1章 長欠問題の再発見とその対策	…()頁	1. 学校沿革と復興の過程	…()頁
第1節 長欠の再発見と調査	…()頁	1-1 錦華小学校の沿革	…()頁
第2節 長欠の全国動向	…()頁	1-2 被災から復興まで	…()頁
第3節 東京都の長欠の状況	…()頁	2. 校舎・設備の教育的機能	…()頁
第2章 長欠の減少と社会生活上の変化	…()頁	2-1 復興校舎の基本構造	…()頁
第1節 長欠の態様	…()頁	2-2 内部設備の教育学的分析	…()頁
第2節 長欠対策の全体的枠組	…()頁	2-3 利用者による学校建築の認識	…()頁
第3節 都民生活の変化	…()頁	3. 地域社会による復興後援会の活動	…()頁
第3章 黄十字会と山谷の長欠児	…()頁	3-1 後援会の事業内容	…()頁
第1節 黄十字会の活動	…()頁	3-2 教育実践を支える地域社会	…()頁
第2節 山谷の長欠児とその家庭状況	…()頁	まとめと今後の課題	…()頁
第3節 活動の変遷と解散	…()頁		
終章	…()頁		

■研究の進め方■

○研究手順の一例

- 1) 研究テーマを探す、もしくは「出会う」。 ←知的好奇心
 - 2) 研究テーマに関する基礎情報を調べる(入門書、事典、Google、Wikipedia etc.)。
※ウェブ上の情報はもちろん、あらゆる情報に疑問を持つ。疑うこと、疑問を持つことから研究ははじまる。
! Wikipedia は引用には使用しない。新聞・雑誌、辞書・事典、官公庁情報などは可能な限り紙媒体にあたる。
 - 3) 基本文献を読み、研究テーマ全体の概観を得る。
※入り口としては、新書、選書、放送大学テキストなどが便利。 →参考文献一覧から「芋づる式」。
書籍だけでなく、学会誌や大学紀要等の学術論文も探す。
 - 4) 対象を絞る(より具体的／各論的／詳細なテーマにする、分析視角・方法を限定する等)。
 - 5) 絞った対象について、さらに資料や先行研究を探し、分析する。
※調べながら少しずつ書き溜めておくと、あとがラク。
- ・文献リストは、日常的に作成する習慣をつける(注や文献リストの作成には意外と手間がかかる)。
例えば、OPAC 検索結果を印刷してファイリング、Excel 等のアプリケーションで文献リスト作成など。

○論文執筆の留意点

- ・大きな問題関心から、いかに具体的な研究テーマとして限定をかけるか。結論を出せる範囲に絞る。
- ・よい論文の条件は、1) 主張の明確さ、2) 先行研究の批判的検討、3) 読み手に伝える努力。
- ・論文とは言えないもの¹
 - (一) 一冊の書物や、一篇の論文を要約したものは研究論文ではない
 - (二) 他人の説を無批判に繰り返したものは研究論文ではない
 - (三) 引用を並べただけでは研究論文ではない
 - (四) 証拠立てられない私見だけでは研究論文にならない
 - (五) 他人の業績を無断で使ったものは剽窃であって研究論文ではない
- ・事実と意見、自説と他説をはっきり書き分ける。 ⇒そのために文献や資料の出典を明記する!

○書く上でのコツ

- ・スケジュールを立てる(つねに逆算の意識を持つ)。
※卒論であれば、遅くとも 10月に入ったら、書けるところからとりあえず書いてみる。
- ・ある程度全体構想を練ったら、目次を作ってみる。章・節ごとに分量(枚数)の目安をつけてみる。
- ・細分化(分節化)して、のちに組み立てる²。その際、文と文、段落と段落、章と章の「つなぎ」を意識する。
- ・序論、本論、結論で主張を繰り返す(言葉を変えながら)。各章ごとに章の要約があるとなおよい。
序論であらかじめ全体の地図＝ゴール(結論)とその道程(本論)を示すことで読者に伝わりやすくなる。
※序論を最後に書くのが無難(序論と結論を一致させるため)。
- ・常に読者を意識して書く。言葉は人に伝えるための道具。

1 齊藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』新訂版、日本エディタースクール出版部、2005年、pp.7-9。

2 アウトライン機能がついたテキストエディタ(アウトラインプロセッサ)や、Wordのアウトライン機能を使うと便利。

■学術論文の約束事■

○文献の示し方

- ・著者の主張がどのような根拠(資料)に基づいているのか、読者が検証できるようにする。資料・文献へのアクセスを保証する。
- ・文献情報は「奥付」が基本となる。
※本書なら、小林正泰『レポート/卒論を書くにあたって』第4版、東京大学教育学部基礎教育学研究室、2010年。
- ・文献の示し方は、研究分野によって異なるが、教育学系は以下がおおむね標準。

【日本語文献】

★論文名は「」、書名・誌名は『』。

単行本の場合 : 著者名『書名』出版社、刊行年

(例) 今井康雄『メディアの教育学——「教育」の再定義のために』東京大学出版会、2004年。

論文集の場合 : 著者名「論文名」、編者名『書名』出版社、刊行年、ページ番号

(例) 小玉重夫「戦後教育における教師の権力性批判の系譜」森田尚人・森田伸子・今井康雄編『教育と政治/戦後教育史を読みなおす』勁草書房、2003年、94-112頁。

雑誌論文の場合 : 著者名「論文名」『誌名』巻号、発行者、刊行年(月)、ページ番号

(例) 川本隆史「公民科教育という試練の場——〈教育における臨床の知〉に寄せて」『教育学研究』第69巻第4号、日本教育学会、2002年12月、452-463頁。

【外国語文献】

★論文名は“ ”(ダブル・クォーテーション)、書名・誌名はイタリック(斜体)または、下線。

単行本の場合 : 著者名, 書名, 出版地: 出版社, 刊行年

e.g. John E. Chubb and Terry M. Moe, *Politics, Markets, and America's Schools*, Washington, D.C.: The Brookings Institution, 1990.

※訳書のある外国語文献の場合—原書の後ろに、〔 〕(キッコウカッコ)をして訳書の書誌情報を記載する。

e.g. Giddens, A., *The Third Way: The Renewal of Social Democracy*, Cambridge: Polity Press, 1998.
〔アンソニー・ギデنز『第三の道——効率と公正の新たな同盟』佐和隆光訳、日本経済新聞社、1999年〕

論文集の場合 : 著者名, “論文名”, in 編者名, 書名, 出版地: 出版社, 刊行年, ページ番号

e.g. Stuart Maclure, “Parents and Schools: Opting In and Opting Out”, in Denis Lawton ed., *The Education Reform Act: Choice and control*, London: Hodder & Stoughton, 1989, pp.5-26.

雑誌論文の場合 : 著者名, “論文名”, 誌名, 巻号, 刊行年(月), ページ番号

e.g. Stephen J. Ball, “Education Markets, Choice and Social Class: the market as a class strategy in the UK and the USA”, *British Journal of Sociology of Education*, Vol.14 No.1, 1993, pp.3-19.

【新聞】

『紙名』(発行地)、発行年月日朝刊/夕刊、ページ番号

(例)『朝日新聞』(東京)、1997年3月13日夕刊、第3面。

【インターネット】

著者 or サイト運営主体「記事名」記事年月日(URL、情報取得年月日)

(例) 文部科学省「平成19年度全国学力・学習状況調査について」2007年4月24日
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/07032809/002.htm、2007年6月20日情報取得)。

○注のつけ方

- ・(1)引用・参照文献(出典)提示のため (cf.本書 p.2、注1)
- ・(2)補足説明のため (cf.本書 p.2、注2)
- ・注のつけ方には「脚注型」と「文中型」がある。

【脚注型】 —(1)文献の提示と(2)補足説明を兼用

- ・本文—該当箇所の右肩に番号(アラビア数字—1,2,3…)を付ける。
注—対応する番号とともに、出典の提示ないし補足説明をする。
- ・脚注は2種類ある=脚注(各ページ末尾。本書の注はこちら)／文末脚注(本文の最後に一括)
※Wordの脚注機能—Word2003は[挿入]-[参照]-[脚注]で脚注ウィンドウが開く。Word2007は[参考資料]-[脚注]。脚注番号の書式は必ずアラビア数字にする。

【文中型(ハーバード方式)】 —(1)出典の提示のみ。(2)補足説明は別途注を作成する

- ・本文中で文献を提示し、補足説明の注とは別に、文末に文献一覧をつける。
- ・文中での提示は(著者姓、刊行年:ページ) ()は[]でもよい。(例) …と述べた(川本, 2002:452)。
※原書と訳書を対照させる場合—
(Giddens 1998:102-103[訳書 173-174])、もしくは(Giddens 1998:102-103=1999:173-174) とする。
- ・文献一覧は、邦語文献のみなら50音順。外国語文献が含まれるときは邦語文献含めアルファベット順。外国語文献で著(編)者が多数の場合は、主要な人名を示して、et al. e.g. Takashi Kawamoto et al. 人名は姓を先に出す書き方もある。文献一覧はこちらにする。
e.g. Kawamoto, T.(姓のあとにカンマ。名を略した時はピリオドをつける)
文献一覧で、同一著者の文献が複数ある場合は刊行年順。著者名は「———」と省略しても良い。
(例—刊行年を前に書く場合)
藤田英典、1996、「教育の市場性/非市場性」、森田尚人他編『教育学年報5 教育と市場』世織書房、pp.55-95
———、1997a、『教育改革』岩波新書
———、1997b、『教育における市場主義』批判』、藤田英典他編『教育学年報6 教育史像の再構築』世織書房、pp.409-455
Fuller, Bruce and Richard F. Elmore with Gary Orfield eds., 1996, *Who Chooses? Who loses?*, New York: Teachers College Press
堀尾輝久、1985、「教育の自由と公共性」『季刊教育法』第57号、pp.6-21
市川昭午、1975、「学校選択の思想」『学校経営研究』第165号、pp.125-131

- ・略号一覧 (出典を記す場合、初出文献か否かを判別するため、「同上/ibid.」や「前掲/op. cit.」を必ず用いる)

	日本語	外国語
単頁	1頁	p.1
複数頁	1~2頁	pp.1-2
直前の注と同じ文献	同上、1頁	Ibid., p.1
直前ではない既出の文献	川本、前掲(書/論文)、1頁	Kawamoto, op. cit., p.1
編/版	川本隆史編/第2版	Kawamoto, T. ed.(※編者が複数の場合は ed.→eds.)/2nd ed.
巻号	第1巻第1号	Vol.1No.1 または 1-1, 1(1) など

※その他よく使われる略号 cf.=参照せよ i.e.=つまり、換言すると e.g.=例えば

○引用の仕方

【文中埋め込み型】

- ・「」でくくる。引用文中に「」がある場合は『 』に直す(原文の記述を優先するため直さない場合もある)。「」の最後には句点(。)を入れない。ただし、句点までが引用の場合、この限りではない。

【抜き出し型】

- ・前後を一行あけ、段落全体を2文字程度字下げする。
- ・引用に注をつける場合、句点までが引用の場合は、句点の後ろに注番号をつける(下記参照)。

(文中型および抜き出し型の例)

しかし、60年代半ば以降、夜間中学に通う生徒に、夜間中学発足当初には見られなかった変化があらわれていると度々指摘されるようになる。変化の第一点は、義務教育未修了の学齢超過者が増えているという点。

たとえば東京の例で申しまして、夜間中学におります生徒が二百五十七名おるわけでございますけれども、いま学齢期にあります生徒は五十六名で、それ以外がみんな年齢超過者でございます。²⁰⁾

夜間中学は、学齢者の就学が就労によって阻害されているという状況への対応策として作られたものである。しかし、学齢者は次第に減少し、生徒の多くが学齢超過者になるという実態の変化が顕わになった。「年齢超過者の問題は、本来の学齢者の中学校教育と違ったような意味を持ってきており」²¹⁾、この状況は夜間中学の本来の趣旨から離れてきている。その結果、墨田区では年齢制限を設け、高年齢の入学希望者が入学を拒否されるという事態まで生じた。

²⁰⁾ 天野勲(文部省初等中等教育局長)の発言。「第五十八回国会参議院予算委員会第四分科会会議録第三号」1968年4月12日、p.17(『第五十八回国会参議院委員会議事録(第十三部予算)』所収)。

²¹⁾ 同上。

○その他

- ・各段落の文頭は1マスあける。文体は、敬体(「ですます」調)を使わない。
- ・図表は、図、表ごとに通し番号とタイトル(キャプション)をつける。(例)図1…、表1…
章ごとの番号をつけることもある。(例)図1-1、図2-1…
図表の下には出典を明記し、どの資料をもとに図表を作成したのか分かるようにする。
- ・論文は適度にレイアウトして、なるべく読みやすくすることを心がける。
例えば、章タイトルはゴシック体にして、前後は1行あけるなど。

■文献検索の方法■

○図書検索サイト ★はもっとも基本のサイト

【図書館】

- ★東大 OPAC …東京大学蔵書目録。(関連:My Library)
- ★NDL-OPAC …国会図書館蔵書目録。(NDL=National Diet Library)
- ・NACSIS Webcat …全国大学等図書館目録。東大 OPAC からあわせて検索できる。
- ・東京都立中央図書館 …公立図書館では有数の蔵書数。
- ・国立教育政策研究所(国研)図書室 …文部省関連資料ほか。
- ・東書文庫 …東京書籍の図書館。教科書のほか教育関係資料の蔵書が多い。

【市販図書】

- ・Books.or.jp[本をさがす] …国内で発行され、現在入手可能な書籍の検索サイト。
- ・Amazon …いわずと知れた書籍等総合ショッピングサイト。新刊古書両方買えるので便利。
- ・日本の古本屋 …日本最大の古書検索サイト。
- ・その他、専門図書館や古書店は都内各所に多数ある。(cf. 参考文献『東京ブックナビ』)
※キーワード検索だけでなく、図書館や書店の「棚」や蔵書目録を眺めると多くの発見がある。
(キーワード検索万能時代に対するアンチテーゼ)

○雑誌論文検索サイト ※論文の取り寄せ方は「My Library について」を参照。

- ★CiNii(サイニイ) …論文検索サイト。一部の論文は PDF でダウンロードできる。
- ・NDL-OPAC 雑誌記事索引検索 …雑誌記事索引の検索サイト。
- ・Google Scholar …Google の学術資料(論文・書籍等)横断検索サービス。

○My Library(Web リクエストサービス)³について

- ・貸出・予約状況照会(返却期限の確認や貸出延長)、学外への文献複写/貸借申込等がネットを通じてできる。蔵書検索や貸出・予約状況照会は携帯電話からも利用可。
- ・文献複写/貸借申込は、学内に所蔵がないことを十分確認し、以下の情報を元に申し込む。
図書の場合 : 著者名、論文名、収録図書の編著者名、書名(ISBN)、出版年、ページ番号
雑誌の場合 : 著者名、論文名、誌名(ISSN)、巻号、刊行年月、ページ番号

○その他お役立ちサイト

- ・東大教育学部図書室 HP …ポータルサイトとしてリンクが厳選されている。
- ・Jcross 図書館と本の情報サイト …図書館、古本屋の横断検索、豊富なリンク集。
- ・国会図書館「リサーチ・ナビ」 …資料調査の入口として。
- ・Japan Knowledge …オンライン事典の横断検索。学術用語等の簡易検索に便利。
(学内 PC を使い教育学部図書室 HP のリンクからアクセス。申請により学外からも利用可能)

³ 東大 OPAC のメイン画面上部に入口がある。

❖ 基礎教育学コース 卒業論文執筆規定 ❖

(1) 用紙

- ・A4 縦サイズで上質紙に印刷。長期保存の都合上、再生紙は不可。

(2) 論文の体裁

- ・「表紙」、「目次」(cf.本書 p.1 構成例)、「参照文献一覧」(脚注型、文中型ともに)を必ずつける。
- ・本文にはページ番号をふる。本文最初のページを「1」とする。

(3) 字数(枚数)

- ・標準フォーマット(A4 サイズ 1 頁に 40 字×30 行、10.5 ポイント)で、17～34 枚(ワープロ使用)。
=400 字詰原稿用紙換算 50～100 枚。
- ・注、図表も字数に含む。表紙、目次、参照文献一覧は枚数に含まない。

参考文献

- ・小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002 年
- ・小笠原喜康『論文の書き方——わかりやすい文章のために』ダイヤモンド社、2007 年
- ・斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』新訂版、日本エディタースクール出版部、2005 年
- ・櫻井雅夫『レポート・論文の書き方 上級』慶応大学出版会、1998 年
- ・田代菊雄編『学生・院生のための研究ハンドブック』第3版、大学教育出版、2001 年
- ・東京大学情報基盤センター編『ネットでアカデミック』2006 年
- ・東京地図出版編集部編『東京ブックナビ』東京地図出版、2009 年
- ・山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書、2001 年

—奥付—

レポート／卒論を書くにあたって

〔第4版〕2010年6月7日発行

著者：小林正泰

発行：東京大学教育学部基礎教育学研究室